

図書館改革事業

文化財・生涯学習課

1 事業目的

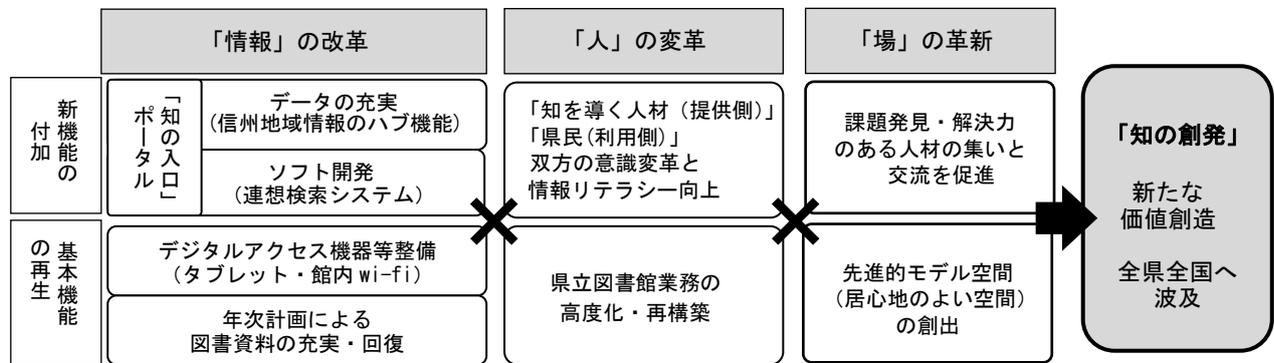
地方創生の新たな時代に対応し、情報・知識基盤社会における多様な県民の「知の拠点」としての役割を果たすため、県全体の図書館サービスの中核たる県立図書館としての機能を強化し、公共図書館と共に様々な情報を活かした新しい図書館づくりを推進する。

2 事業内容

【改革の方向性】

- ① 「図書の蓄積・貸出・レファレンス」から、県民の「学び・情報の活用・課題解決」の支援への転換
- ② 公立図書館等への支援強化・ネットワーク構築（人材育成・運営アドバイスを強化）
- ③ 県立の図書館としての基本機能の回復（全国水準を踏まえた、郷土・専門資料等図書購入費の増額）
- ④ 業務の分業化・高度化による組織の体質強化

【事業展開のイメージ】



3 平成30年度予算額 7367万4千円

(単位：千円)

	主要項目	内容	H30	H29	H28
情報の改革	「信州・知の入口」ポータル構築	○信州に関する様々な情報資産をつなぎ、一元的な検索・相互活用を可能とするデジタル情報基盤を構築 H29 機能仕様検討 → H30 技術仕様書作成 → H31 構築 (H32.3～稼働予定)	10,440	8,356	3,216
	デジタル情報・信州郷土資料等の充実	○新聞雑誌等商用データベースの大幅拡充 ○信州に関する地域情報・郷土資料等の充実			
人の変革	図書館フォーラム・課題解決型ワークショップ等の開催	○県民・図書館関係者・地域関係者などが、これからの公共図書館のあり方を共に考え、実現するための意識啓発・人材育成 ・情報利活用に対する意識変革を促す県民フォーラム開催 ・図書館関係者（司書等）が今後求められるスキルや、情報資産の管理に関する実務研修の開催 ・県内4地域の特長ある図書館と連携した地域に根差した取組みを学び合うワークショップの開催	2,499	2,453	1,511
	県立図書館業務の高度化・再構築	○正規司書：企画、市町村支援、改革業務へ専念 ○嘱託司書：運用リーダー制を導入 職責に応じた報酬へ見直し			
場の革新	先進的モデル空間の創出 ハイブリット図書館「共知・共創」学びの場	○紙情報とデジタル情報を同時に扱うことができる「ハイブリット図書館」モデルの提示 H28 2F「ナレッジ・ラボ」→ H29「UCDL(ウチデル)」 ・Wi-Fi環境整備、タブレットPC(20台)等 ○主体的・創造的な学びを支える「知と創造の場」としての図書館のあり方を提示 H30 3F「信州・学び創造ラボ」 ・空間整備、デジタル工作機器(3Dプリンタ)等 ・県立図書館を中心に多様な情報や人をつなぎ、地域の拠点図書館と連携してCo-Learningを県内各地で展開	60,735	1,044	1,900
計			73,674	11,853	6,627